



## はじめに

---

2011年1月 実父が亡くなりました。

私は、子供の頃から民俗学・オカルト等様々なことに興味を持って過ごしてきました。

オカルト好きながら

「そんなものは、脳内で起こる生理現象だろう」

と、思っていました

父の亡くなった時から起こり始めた不思議な現象で

「“何か”は、あるんだ」

と確信しました。

ここに、ネットの波の中で拡散していく個人的な体験談を纏めてみました。

【信じるか信じないかは、あなた次第です】

## 耳鳴り

---

父が、松の内に死んでしまった...  
四十九日までは、色々不思議な事が起こった。

「やいっ」  
と母を呼ぶ父の声が  
いつも座っていた“ちゃぶ台”付近から聞こえたり  
消したはずのTVが突然ついたり。

そして、四十九日を過ぎた後に本当に不思議な事が  
私の身に起こるようになった。

一つは、“耳鳴り”  
昔から、耳鳴りを頻繁に経験してるんだけど  
この日を境に  
思った事の正しい（共感）と思われる事には  
右耳から“ぼ～ん”と耳鳴り。  
正しくないのか？  
と思われる事には、左耳から耳鳴りが起こるようになってしまった。  
日常的に起こる“キーン”と鳴る【音】とは違うので分かりやすい。

例えば、お札とか処分しようとする時、  
“触るな！”  
という感じで、左から。  
干してある雨合羽を捨てようとする時  
“捨てるなっ！”  
と左から。  
この時期は、恐怖で何が何だか分けが分からなかった。

こればかりは、私にしか分からない【音】

「信じるか信じないかは、あなた次第です...」って感じ。

やっぱり、何かは、あるんだろうなあ。

誰か、私の耳を封印していたのか？

私は、気が狂ってもいないしなあ。

私が死んだら、全部わかる事なのかしら？？？

にしても...

世の中には、不思議な事が、多いよね。

## ブロンド髪持つ青年

---

実父の四十九日も終わらない頃  
フローリングでうたた寝をしてたら金縛りに遭った。  
ファンヒーターの前で寝ていたので  
吹き出す熱い風が顔に当たり苦しかった。  
足元の壁を見ると洒落た青いスーツを着た  
腕組みをしたブロンドの髪を持つ青年が微笑んでいた。

“あちらの方”では、あるけれど  
なかなかハンサムでスタイリッシュな青年だった。  
でも、おそらく“この世”に、いてはいけない“もの”なんだろう。

じりじりと私は焼けていくようで  
（このままでは火傷を負ってしまう）  
という恐怖を感じ心の中で叫んだ。

“あなたは死んでるのっ！頼むから、天国へ行ってっ！”

すると、ふと悲しい笑顔を残して消えてしまった。

彼が消えたと同時に  
私の金縛りは解け身体に自由が戻った。  
前ボタンの金属部分が熱くなっていた。

海外渡航の後だったので、多分その時連れてきてしまったのかと。

# 大蛇

---

病院に入院していた時のことです。

実は、私、正真正銘の「女」です。

G A Yでは、ありません。

その時の病名は、

「卵巣のう腫」

よって、左か右の卵巣がありません。

今、流行り（2011震災時）のセシウムとかの物質って女性の場合卵巣とか子宮に貯まりやすいんですって（苦笑）

ベッドの中で、眠れぬ夜を過ごしていると、  
布団の中に大蛇が、上がって来る感じがしたのです。

冷たい感触と太い体。

よく動物園とかで観るモノです。

爬虫類ですね。

そりゃ、滅茶苦茶怖かったですよ…。

「このまま絞殺されるのかしら」

と、思う程でした。

これもまた、不思議な時間に消えました。

午前3：00位でしょうか？

これって、脳内のホルモンが感じさせた幻覚？

それとも…。

どこまでがファンタジーで、どこからが狂気なんでしょうね（苦笑）

“蛇”は死を意味するとか。

なかなか興味深い“夢”でありました。

## 味噌汁

---

親友の話。

ある晩、玄関を開ける音がして

「はぁ～疲れた...」

という、声が聞こえたので

旦那が、帰宅したと思い（単身赴任）

夕飯の味噌汁を温めようとコンロに火を

かけたんだそうです。

でも、ちっとも部屋に入ってこないの

「もう、何ちんたらしてんのよっ！」

って、怒りながら玄関へ向かうと

誰もいない。

と、そこに電話が鳴った。

内容は、旦那の実父が、今、息を引き取った

という連絡が。

よく聞く話では、あります。

亡くなると魂は、自由に移動できるみたいです。

## “なんたら棒”

---

2011年3月11日あの忌まわしき東北大震災が起きました。

まだマスコミで“制御棒”という言葉が使われる前に

(こちとら素人なんで専門用語はさっぱり)

夢に実父が出てきました。

夢の中で母と二人流しのお茶碗を洗っていると

父が、流しの背後にある食器棚の前に

裸の大将のようなランニング姿で現れました。

その体からは体温を感じるほどでした。

私は驚いて父に

「爺ちゃん、あんた、この間死んだんじゃないの？」

と尋ねると、父は、生前の口調で

「死んだんだけど、呼ばれたわ！」

と答えました。

「何しに呼ばれたの？」

「あの、なんたら棒を止める為にじゃわ」

と、その答えを聞いた瞬間

私は、夢から覚め布団の中で

「そりゃ、ご苦労様なこった...」

と思ったとき

右耳から、あの“ピーン”という耳鳴りが。

父は、国鉄の電気関係の仕事をしていました。

落雷や台風などがあるたび現場に呼び出されていましたから

あちらの世界でも、そんな感じで働いているようです。

死んだ後にも、その道の専門家は、

現場に駆けつけなければ、いけないですよ。

先に生きていく私たちは、生き抜いて

死んだら死んだで後に続く若者たちを

背後から応援していきましょうぞ。

これが、永遠に続くという訳です。

永久に永久に...

英国に住んでいた友人が  
久しぶりの帰国をした時、友人の家で“お泊り会”をしました。

私は、友人の娘に渡すCDの確認のために  
キッチンのバックカウンターにCDラジカセを置いて  
録音状態を確認しつつ、ご機嫌に過ごしていました。

ふとダイニングの方が気になり  
キッチンからダイニングに向かい  
ダイニングテーブルの方に目をやると  
テーブルの上座の位置に  
麻のスーツを着た男性が立っていました。

姿を見たというか、ビジョンが脳内に焼き付けられた  
という感じでした。

例えるなら映画の“シックスセンス”みたいな感じです。

その夜は、お泊り会を開いた家の長女が  
丁度高熱を出し寝込んでいたので  
気になって  
二階に駆け上がり、聞いてみました。

「麻のシャツを着た男の人に心当たりある？」  
って。

彼女は答えました。

「多分、それ、おとやん（お父さん）」

そ答えを聞いて  
（そういうことか...）  
とピンときて  
キッチンのバックカウンターに立ててある電話帳を取りだし  
一番近い総合病院へ彼女を連れて行くように助言致しました。

結果は、大正解。  
肝臓系統の命の危険を伴う病気だったんです。

検査の結果、即入院。

でも、若くって基本体力があるので  
医者も驚くほどの勢いで回復。  
一カ月の入院の予定も2週間で済みました。

心配してたんでしょうね。  
父親だから。  
単身赴任をしながらも  
娘のことを思う父

生き霊でも飛ばしたのかしらね？

何にしても、父親にとっては、娘は大事みたいです。  
わりと良い話でしょ？

# トランクス

---

会社勤めしていた時の同僚の体験談。

夜眠っていると、激しい落雷と共に豪雨になった。

同僚は

「あ、窓開けっ放しだから閉めなきゃ」  
と、思ったにもかかわらず  
金縛りに遭い体が、全く動かない。

ふと、目を動かしてベッドの横を見ると  
そこには、日焼けしたトランクス（水着かも）を  
履いた首の無い男性が、立っていたそうだ。

隣の部屋で寝ている妹を呼ぼうにも声も出ない。  
暫くすると、その首の無い男性は、消えた。  
彼女は、その霊のトランクスの模様まで、しっかり記憶してる。  
青地に赤のハイビスカス模様...

もうね、これ聞いた時は、マジ、ゾッとしたよ。  
普段全くオカルトの話なんてした事もない人だったから。

その体験をした後日  
オカルトに詳しいというか、その道のプロに相談したところ  
（勿論、本物の方は、金銭は要求しない）  
「首の無い霊は、ただの通りすがりだから、気にしなくても大丈夫よ！」  
というアドバイスを貰ったという。

落雷と土砂降りの雨  
とある人によると  
イオンが発生するから見やすくなるらしい  
...マジ？

## 臨死体験

---

友人の臨死体験

幼児期原因不明の高熱に冒され、

お医者様も

「今晚が、山場で危ないかもしれないから目を離さないように！」

と言われた夜、彼女は、綺麗なお花畑にいたそうです。

勿論、高熱が見せた夢かもしれませんがね。

で、このまま綺麗な小川を渡って、子供達の笑い声の

する方向へ行こうとした時

（向こう側の方が、楽しそうに思えた）

母親の

「ooちゃん、〇〇ちゃん!!」

と言う声が聞こえて振り向いた途端に

布団の中に戻ったという。

母親の声と母親が体を揺さぶる感じを、

はっきりとまだ覚えていると言っていました。

私の父も胃癌の手術をしたときに

臨死体験をしたと話していました。

父の話では

綺麗な花畑の柔らかな風が吹くなかで

くすくす笑う少女に囲まれ

「おかしいなあ～手術に来てたはずなんじゃが」

と思い、少女たちに

「ここはどこじゃ？」

と、問うた途端

サーーと強めの風が吹き

目が覚めると

術後のベッドの中だったとか。

脳が見せる幻か？それとも事実か？

立花隆ですら、結論出してなかったよね???

聞いたところでは

脳の一部を刺激すると臨死体験が出来るとか。

不思議な器官だよね。

## ケルンの鐘

---

これは、私自身の体験なんです

ケルンって街ご存知ですよね？

ドイツの…。

世界遺産の大聖堂のある街です。

ドイツ旅行の時、大聖堂へアクセスする最寄り駅の

反対側の出口付近のホテルに宿泊しました。

その夜のこと、深夜です。

いわゆる丑三つ時、

私自身が、なんかおかしくなったんですよ。

ベッドで寝入った時に、いきなり知らない何かに

取り付かれたようになり、

「私が来たかったのは、ここよ!!」

って、跪いて神に祈ったの。

私の頭の中は

(えっ？なんで勝手に祈ってるの？どういうこと？)

って意外と冷静なんだけれど

肉体の方は、感情的。

不思議な体験でした。

そして二十歳の頃の経験が

全てケルンに繋がってるような気が致しました。

二十歳の時

所謂“国内留学”みたいな

というか日本人とフランス人の家庭で

ベビーシッターのアルバイトしていて

日常英会話を習いながら

そこへ出入りする留学生との交流を通して

欧州の方の家族の様子を聞いたり

文化を知ったり、とっても楽しい経験をしたのです。

僅か半年ですが、三年分以上の勉強をしたみたいな感じです。

その時の雇い主のフランス人の故郷が

ドイツ国境と接する地域で

彼女は、地域の教会で英語とドイツ語を習得したという。

まあ、そんなこんなでいろいろな“こと”がありまして。

友人はドイツ人と結婚もしてましたし。

ドイツには【縁】を感じていたのです。

話を体験談へ戻します。

そういう霊的なことが起こると

「同室に寝ている家族を起こしても起きてくれない」

と靈感の強い知り合いが話していたように

愛娘をどんなに起こしても  
びくともしないんですよ（爆睡以上の爆睡）

その後は、まるで“ポルターガイスト”“ゴーストバスター”の世界。  
バスルームの前に綺麗な中世の服を着た少女は、立ってるし(-\_-)  
鏡に映る自分の顔も溶け落ちていくようだし...

しょうがないので、部屋中の照明を全て付けて  
シーツを頭まで被ってガタガタ震えて  
朝の訪れを待ちました。

そして、ケルン大聖堂の鐘の音と共に  
その恐怖は、綺麗に消え去りました...。  
西洋も東洋もその辺は、同じようですね。  
日本でも午前五時くらいに最初の寺の鐘を鳴らすでしょ？  
あんな感じです。

まさか自分に“何者”かが降りてくるなんて  
想像もしてなかったので驚きました。

“あちらの住人”になっても  
自由には、動けないのかしら???  
わからないことだらけですよ。

## 鏡

---

本家には、仏壇の裏に古い鏡があります。

その古い鏡を仏壇も裏から出すと災いが起きるといふ言い伝えがあります。

実は、過去に数回その鏡を取りだした事があります。

古くなった家を新築する為でした。

出した夜、何が起こったと思いますか？

火事です。

ま、家の新築の為ですから、燃やしてしまっても何の問題もないのですが。

それを知った時、親族全員がゾッとしました。

「やっぱり鏡に何かあるんじゃないのか？」って。

この事件の相当前にも同じ事が、あったそうです。

その時は、仏壇の裏の掃除のためだったそうです。

今は亡き祖父も伯父も、大工だったので

火事もそれほど苦にはならなかったようですけどね。

## 腕を引くもの

---

実家が“寺”であるママ友の体験談

ある晩、彼女が、ベッドで寝ていると  
突然ベッドの下から、右腕を引っぱられ  
ベッドの下に引き落とされたそうです。

翌朝、彼女の父親にその話をしたところ  
「霊なんて、この世の中にあるわけ無い！」  
って、完全否定されたそう。

仕方ないので、爺様にその話をしたところ  
爺様が、彼女の部屋に出向き  
お経を唱えてくれたそうです。

「また、同じような事が、あったら俺に言え。  
何遍でもお経を唱えてやるから。  
こんな事は、寺ではよくあることだ。  
あいつ等は、寂しがり屋だから、構って欲しいんだ」  
と語ったという。

色白の美人の“感”の鋭い人でした。

## お稲荷さん

---

実母側の祖母（私からみて）のお話。

祖母は、三大稲荷で有名な土地に暮らしておりました。

もともとは、秘境のような土地に住んでいたんですが

長男が家を建て同居するということで

稲荷の土地に移り住んだのです。

車を持たない家だったので

買いモノや雑務は徒歩で。

曇りのある日、最寄りのバス停から三大稲荷の駅前まで

買い出しをしに出かけてました。

バスを降りたあと

よく知った道なのに目的地までたどり着く事が出来ません。

霏のかかったようなお天気です。

熟知してる町なのに

何度も何度も同じ道をぐるぐると回され

いくら歩いてもお稲荷さんから離れる事が出来ません。

「悪戯は、止めてくれ...」

とばかりに荷物を放り出すと（短気な所もあったので）

いきなり霧が晴れ、目的地に出る道が現れたそうです。

そして荷物の中の「薩摩芋の天ぷら」だけが、無くなっていたそうです。

よく聞きますよね。「天ぷら」を取られたり「油揚げ」を取られる話。

祖母も体験したらしいです。

薩摩芋の天ぷらは祖母の大好物でした。

悔しかったのか何度も同じ話をしてました。

祖母の夢には、よく「お稲荷」さんが現れたそうです。

私も夢で「お稲荷さん」が出てくる事が、あります。

う～ん、隔世遺伝でしょうかね???

ちなみに、実母は、全く見た事ないと言います。

あと、実父（母にとっては夫）も夢には、出てこないそうです。

「夫婦は、他人」だからでしょうかね???(苦笑)

それとも、尻にひかれていたせいでしょうか。

いや、怒らせると怖いんですよ...実母

# 写真

---

30年以上前、独身だった頃の話

大阪のとある同人誌の即売会に出かけました。

その時は、参加はせず購入の為に出かけたのです。  
つまりは、同人誌をやっていた当時の知人の方に会うためです。  
今でいう「オフ会」ですね。

初めての大阪でしたが、名古屋では購入できない同人誌も多く  
レベルも高く楽しく沢山の同人誌を買いあさりました。

数年後、私は、特に何になりたいものなく  
デザインの専門学校に通うことを選びました。

そのとき知り合った友人から一枚の写真を見せられました。

そこには、太った腐女子である私の姿が  
写真の真ん中に映し出されていました。

時は経ち、今から28年前。  
妊産婦教室で見かけた人が、あまりに可愛らしいので  
帰宅途中の信号で声をかけ  
お茶をして仲良くなり

数日後お宅にお邪魔して  
アルバムの写真を見ていたら  
そこには  
私の元仕事仲間の姿が写し出された写真が数枚...

話を聞くと、映し出されていたのは  
ご主人の知り合いで  
私達にとっては大切なクライアント。

彼女は、そんな御得意さんとの結婚式を  
私の住んでいた下宿の隣りに建っていた教会で  
挙げたという事実が、判明

その教会。  
特にこれといって素敵な分けでもなく  
(コンクリートの打ちっぱなしでムードの欠片も無い)

外観だけを見ると  
「何これ？へぼい...」

な教会で（苦笑）

ただ記憶を辿ると

一度だけ綺麗な花嫁が教会の前で  
タクシーを待っていた事ことが有るんですよ。

それが、時期的にみても

「妊産婦教室でナンパした」  
彼女である可能性が、高いんです。

なんだか「縁」を感じましたねえ。

ちなみに彼女、ヨーロッパで描かれる「マリア」様に似ています。  
とても綺麗な方です。

ヨーロッパ旅行で列車のコンパートメントに乗ると  
殿方の視線が、彼女に集中致してました。

欧州の【美】の基準を感じました。

よって宗教画を見ると

感想はいつも

「あっ〇〇ちゃんだ」  
であります。

## こっくりさん

---

実父から聞いたお話。

父の時代

「こっくりさん」は

三本の割り箸をむすんで、左手でてっぺんを掴んで

紙の上を動かすものだという。

放課後、近所の友達とやっていたら

突然、とんとんと紙の上を動いていた箸が

父の方に向かって襲いかかってきた。

「目が潰される」と思い抵抗した後

「なんでこんなひどい事をするんだ？」

と聞いてみたら

紙の上でこっくりさんが

「お前は、『犬』だから」

と告げたという。

「そこにいた俺だけが『犬』年だったから

気に食わなかったんだろうな...」

と、言うておりました。

オカルト好きな私が

「なんか怖い話とかをして...」

とせがむと大概冗談で

『呪いの亀』や『歯無し』でお茶を濁していたGちゃんの

唯一の怖い体験談だったようです。

高圧電線に引っ掛かったり、土砂崩れに巻き込まれそうになったり

現実の怖い体験は、数々あったようですが... (悪運は強かった)

オカルト的な話題は、それだけ。

低級霊って『犬』とか『猫』に弱いらしいから

ありそうな「お話」かもしれませんね。

私達の中学校時代も流行りましたね、こっくりさん

私は、友達が呼び出した「こっくりさん」に

「守護霊が弱い」って言われたのが、ショックでした。

友人は、呼び出した「こっくりさん」が

「幼くして死んでしまった子供の霊」とか言う時が有って  
泣いてた事もありました…。

でも、衝撃的なのは、「こっくりさん」を返す前に  
体育の先生が、窓の外に現れて  
目の前でこっくりさんの紙をびりびりに破り捨て

「お前ら下らん事やっとなんで、はよ帰れ!!!」

と怒鳴られた事かな（笑）

鹿児島から来られた先生でイントネーションが違ったので  
超ビビりましたよ。

懐かしいなあ〜♪今頃、どうしておられるんだろう…。

## 東尋坊

---

福井方面に旅行に出かけた時  
東尋坊の近くの島の神社に行こうとすると  
何故かピタリと足がすくんでしまって  
動けなくなった場所がありました。

夫の人は

「橋を渡って島まで行こう」  
と言うのですが

どうしても怖くって動く事が出来ませんでした。

原因は、分かりませんが  
兎に角、橋を渡りたくもなかったし  
島に近づきたくもなかったのです。

実家に帰宅して  
たまたま居た叔母さんにデジカメで撮った画像を見せると  
叔母さんが

「この島に上がるんだってね。東尋坊から飛び降りた人の遺体が。  
地元の釣り人は、夜は絶対に近寄らないんだって」

と話して吃驚致しました。

其の画像の場所こそが、私が、怖くて近づく事の出来なかった場所だったからです。

「やっぱり、そうなんだあ」

「うん、夜釣りをしていると後ろから来るらしいよ」  
って。

ぞっとしました。

他にも近づきたくない場所は

奈良の博物館のとある仏像  
(この仏像だけは娘も気配を察知して逃げ出した)

一番古い瓦を使用したお寺の宝物殿

京都の有名観光スポットにある小さなお寺  
(この場所は、そこだけ観光客が居ない)  
とか、沢山。

霊能力のある知人は

「みんな気付かないだけでキチンと避けてるんだよ。危ない場所」  
と言っていました。

確かにそうかも知れませんね

潜在意識の下で危ない場所を感知してるのかも。

でも、やっぱり本当に怖いのは、生身の人間なんだろうね (ありきたり)

# マラソン

---

中学校三年生の時

学校で「早朝にマラソンをする」  
という活動が行われていました。

マラソンといっても  
登校した人から適当に運動場を走るだけの活動ですが。

ある朝、同じクラスの真面目で体育系に強い一人の女子が  
黙々と走っていました。

クラスメート数人でそれを見ながら

「〇〇ちゃん、相変わらず走り込んでるね」

「よくやるよねえ～、毎日毎日...凄いよ...」

などと机を囲んで、彼女の「走る姿」を見ていたんですよ。

そんな風景の教室に

「おはよお～、今日は遅くなったわあ～」

と、登場したのが

運動場を走っている筈の〇〇ちゃんだったのです。

「あれっ！〇〇ちゃん、あんた今、さっき運動場走ってなかった??？」

クラスに居た女子が、口々に言いました。

「ううん、今来たところだもん、走ってないってえ～」

...私達は首をひねるばかりでした。

「確かに走る姿を見たんだけど...」

寒い冬の教室での出来事です。

真面目な彼女の「念」が、走らせたのかしらね？

バレーボールの得意な女の子でした。

未だもって、謎です。

確かに見たんだけどな。

複数名で見間違いなんてことあるのかな？

# 出雲大社

---

出雲大社にお参りした翌日

八重垣神社に行こうとバスの時刻表を見ていた時の事です。

バス会社の方が、親切にも声をかけて下さって

「八重神社の向かいに、お土産屋さんが有るから、分からない事は  
その小母さんに聞けば、大概の事は、分かるから。」

というアドバイスを受け、八重垣神社に向かいました。

お参りを済ませ、鏡の池の占いもやり  
全て見尽くしても時間的には、朝です。

バスの運転手さんに言われたお土産屋さんも閉まっていました。

「ま、お土産は、最後にして“はにわロード”を歩いて次に行こうよ」

という事になり“はにわロード”を歩いていた時  
一人の小母さんに会いました。

「このまま行けば神魂神社に行けますか？」

と、道を尋ねたところ

「あんた方、史跡とかが好きなら  
ここの山の裏に有る史跡発掘跡を見て行きなさい。  
私が、この上にあるお墓にお参りに行くついでに  
案内してあげる...」

と言われました。

「???'」

よく分からないけれど

先を急ぐ旅でもなし、面白そうなので付いていくと

お墓の裏には、竪穴式の住居跡が沢山有りました。

「大学の人も来て調査して行ったんだけど  
有り過ぎて途中で諦めて帰るほどだったよ」  
と笑ってました。

木の生い茂る森の中に見え隠れする  
たくさんの竪穴式住居跡  
現存してるのが不思議に思えました。

「うちの田んぼから出たのが  
完全な形をした土器だったんだけど  
それだけは我が家の家宝にしてある」  
とも言っていました。

そうです、その人こそがバス停で教えられた  
八重垣神社前のお土産屋さんの小母さんでした。

偶然の出会いがもたらした  
ガイドブックにも載っていない貴重な発掘現場跡。

その後、神魂神社とか観光施設を回った後  
一時間に一本しかない電車を待っているところに現れたのが  
島根の観光のガイドさんで  
その方が、当地を知っている方だったんですよ。

我が住処は、数万人の地方都市で  
島根の方なら絶対に知らないであろう土地。

でも、ご存知でした。

おまけに当地に訪れた事もあると言う…。

仰天しましたね。

県内でも知る人が少ないほどの町なのに。

「貴方の土地の殿様が、我が城を築かれた。  
もう少し評価されても良いと思っている…」

とまで熱く語られました。

『袖すりあうのも他生の縁』とは、言いますが

ここまでの出会いが有るとは。

宿泊したホテルも国営放送で使われたホテルだし（偶然）

出雲の大国主命のウエルカムを感じた旅でした。

貴方も旅で感じる事有りませんか???

そこの土地に歓迎されてるな...みたいな事。

はにわロード良い道でしたよ。

我が故郷の昭和の景色が  
其のまま残ってるような所で懐かしかったです。

出雲大社に娘と二人で旅をした数日後

友人の喫茶店へ行った時の話。

その友人の「見える友達」が

「入口に大黒様がみえるから、縁のある方が来るかもね...」

と言い残して去ったそうです。

次の日、現れた（年に1~2回しか行けない）私が  
「出雲大社」に旅行した事を話し始めて驚いたとか。

「ああ...〇〇さんの事だったんだあ〜、実は...」  
と教えてくれました（凄いと思ったよ）

見える人って怖いわ...「嘘」通じないもん。

仏人の知人は

「私の側に死んでしまった私の赤ちゃんが、浮いてるの...」

って言った事が、有ったけれど万国共通なのかしらね???

ふわふわ浮いていた赤ちゃんは、また戻って生まれたと言うけれど。

不思議な話は多いみたいです。

“見る人”“感じる人”いろいろなタイプの人が

いるようです。

共時性とか考えだすと分けが分からなくなったりして。

## 梨

---

秋の日曜夜、父が夢に出てきた。  
寢室の窓辺で私と二人で夜風にあたりながら  
空を見上げていて、私に向って

「働いてお金を稼いでできとるんだから、遊んどるお前が  
キチンと面倒見てやらんとな」  
と一言

「そりゃ、言われんでも分かってるわっ！！  
爺ちゃん、風呂入るか？  
ああ...死んだら風呂にも入れんか??？」

って、夢で父と話してる途中で

死んでることに気が付いて言ったら

にっこり♪

私の顔を見て大きく笑った、ところで目が覚めた。

人一倍気を使う人だったし、孫が可愛くって仕方がなかったみたいだし

夫には「媚殿、媚殿...」

という感じで大切にしてたし。

仕事が辛くって毎日  
「ぎゃん泣き」の娘に

ほとんど手を焼いていた私を

励ましに来てくれたのかな???なんて思った。

翌朝、朝一番の宅急便で地元の名産の「梨」が、届いた。

「ああ...これだったのかあ～♪」

毎年、晩秋「新高」が出る季節に  
父は、実母を連れて故郷の梨を親戚や友人に送っていた。

実母に電話すると今年は、お隣の方に連れて行って貰ったという。

「……………」

泣けた。

送り主の欄が、実母になっていた。

こうやって、少しずつ変わって行くんだろうな…日常生活が。

毎日、出来る限りの事をしていこうと思う。

今日が「最後の日」だと思って。

人と笑顔で接したり、何気ない会話を楽しんだり。

しかし、「夢」の中で「注意」される事が多いので、ちょこっと困る。

下手に愚痴れないじゃないか。

でも「夢」でも会えるだけ良いよね。

その夜、出てきた父は少し若返っていた。

なんでだろう？

でも、相変わらず“裸の大将”のようなランニング姿だった。

あちらの仕事も夜には、終わってるのかな。

## 雨合羽

---

史上初めて無敗の3冠馬シンボリルドルフが死亡した。

私的には、トウカイテイオーのお父さんという位置づけなんだけれど。

無敗でクラシック三冠馬っていうのが凄い！

おまけに名馬を沢山輩出して、30歳という長命。

本当の意味でも『名馬』だった。

話変わりますが  
お馬さんって擬人化するといいい感じじゃないですか？

トウカイテイオーは、眉目秀麗な美系キャラで

ヒシアマゾンは「ツンデレ」（←男に媚びない）とか。

ネットの普及で数々の名馬の画像や動画も手に入るようになって  
楽しみ倍増

実は、父の四十九日が終わるまで  
右耳左耳にしていた『音』

「お札に触らないように」とか  
色々有ったんですが

何故か室内物干しに掛けてあった『雨合羽』にも  
反応したんですよ。

『雨合羽』（レインコート）を片付けようとしたら

「さわるな」って感じで左耳から「ピーン」って。

その時は  
「これにも触ったら駄目なの???'」って  
理由が分からなかったんですが。

後日、とある『懸賞』で  
乗馬クラブの無料体験コースが当たって。

2011.3.11以来

「悔いなく生きよう」なんて思ったりして

以前からの『夢』だった乗馬を始めてしまったんです。

乗馬を初めて何鞍目かに  
『雨』降りのレッスンを有って

購入して持参した『雨合羽』（レインコート）が新品にも関わらず

下着まで、びっしょり濡れるほど『雨』がしみる仕様でした。

結局、実家にあるGちゃんの仕事用  
『雨合羽』を実母に持って来て貰う羽目に。

これだったんですね。

『雨合羽』要るようになるから「捨てるな」というメッセージ。

掛けてあった『雨合羽』は、劣化して使えませんでした

実母が「処分」する寸前に電話を入れると事になるという。

「未来」まで予測してるのか???

「偶然」は、やはり無いのか？

不思議に思いました。

昔から、父は「賭け事」好きで

競馬も勿論大好きで

ダイニングテーブルに座って馬券を選ぶ父が

台所で食材を刻む母の背に向かって

「おい、好きな番号で馬券買うぞっ！」

と言って

実母が適当に答えたのが大当たりだった事が有りました。

それが、死亡した“シンボルルドルフ”

“お馬”さんまで、『ソウルメイト』だったのだろうか？

## 盂蘭盆会

---

それは真宗大谷派である義実家のお寺での盆法要のときでした。

日頃から、良き嫁である私、毎年キチンと指定された日にお寺に義母と夫と参ります。

真宗大谷派は、死んだら即「仏」となるものですから月命日も盆もある筈はないのですが、そこはそれ、坊さんも人の子。

食べていく為には、金銭が必要となります。

特に義母の寺は、キッチリ営業してまして

月命日、盆、他全て招集をかけます。

これは地域、または寺により違いがあるようです。

私の実家の方は、全く無いようですが。

「仏は、ほっとけ！」

まさに、駄洒落そのモノ。

私は、アレルギー性の鼻炎持ち且つ喘息持ちなので法要の間、廊下のソファで待ってるわけです。

部屋に入ると線香の煙による

「喘息の発作」で、周りの人がビビりますから。

前夜、郡上踊りにも行ったものですから、相当疲れたのでしょう。

つい、ソファで居眠りをしてしまいました。

すると夢で色々な人が、ソファに腰かけたり廊下を歩いたりしてるのが、見えたんですよ。

若坊さんの読経も聞こえています。

身体だけが動かない“金縛り”のような状況。

苦しそうな顔をしてたんですよ

(実際声を出したかった位ですから)

その時、そのお寺の関係者のお婆さんか

「貴女、大丈夫???'」

と、私の肩を揺らして起こしてくれました。

ホッとしました。

「いやぁ～、私、今夢見てて、ソファの隣に人が座ったり  
廊下を人が歩いたりって、夢見たんですよ」

と、言ったところ、帰ってきた答えが

「そうねえ～、そういう事って、お寺では、よくある事だからねえ。  
しょうがないのよ。ここも寺だから」

と。

「あら夢見たのね...」

という答えの方が返ってくると思ったのに。

良くある事って、どういう事よっ!!!

在るわけ???'やっぱり「何」かが???'

若は言います。

「それは、死んでみないと判りません...」

あのね...聖職者が、それでいいわけなの???'

はっきりさせてよ。

怖いから。

地下にしかなかった納骨堂が  
新たに設けられ大きくなって  
数が増えていく方に恐怖を感じます。

## 胎内記憶

---

霊的体験をした知り合いの子供。

幼稚園に上がる前に

「お母さんのお腹にいた時のこと覚えている？」

と聞いたところ

「暖かくって赤かった」

と答えたそうです。

友人は、

「生まれた時に灯っていた蠟燭の光をはっきり覚えている」

と言います。

母親に聞いたところ

「確かに、出産は、仏間で仏壇に蠟燭を灯していた」

と、驚いていたそうです。

でも、何故か胎内の記憶の話を語ると  
背筋がゾットするのはなぜでしょうね???

与えられた「業」に対しての「答え」を  
試練なしでクリアしてしまう事への  
何者からかのメッセージでしょうかね？

## 天然パーマ

---

友人の甥っ子が、誕生する前の話です。

とある晩、妹と下ネタで盛り上がっていたところ

突然妹が、  
何かに取りつかれたような表情になり  
語りだしました。

「今、貴女の上に天然パーマの男の子が、  
貴女を母として選びたい と思っている。  
絶対に産むように...」  
って。

...友人は、何の事か、その時は、さっぱり分からなかったそうです。

暫くして、友人の夫婦の間に子供が産まれました。

超安産だったそうです。

生まれてきた子供は、妹の言ったとおりに

天然パーマの男の子。

予言？通りだったそうです。

現在彼女は、霊能力を封印してます。

なぜなら、子育ての方が“霊”を扱うより大変だから。

泣く子と地頭には勝てない・・・

## 学校の怪談

---

我が母校にもご多分に漏れず怪談話がありました。

トイレの怪談です。

その頃のトイレは、いわゆる「ボットン」式のトイレ（汲み取り）  
そこの手前から二つ目に出ると言われてました。

こうゆうのは、どの時代でもブームになるんですね。

休み時間になると生徒が、  
現場（トイレ）に集合するようになりました。

ある休みの日、学校へ遊びに行く機会が有り

友達と校庭で遊びながら、  
「ボットン」トイレを使いました。  
校庭から一番近い場所だったからだと思います。

夕方なるまで遊び  
そろそろ帰宅する時間になりました。

本当は、そこで用を足したくなかったんですが  
新しい校舎の方は、閉鎖されていて  
古いトイレを使わざるおえない。

相変わらずジメジメとして、床は湿っています。

でも、その「問題のトイレ」だけが濁っているのです。

日当たりの問題では、無かったです。  
少し前に入った時は、濡れてましたから。

恐怖でした。子供ながらに。

で、そこを利用するのは、諦めて

校舎裏の茂みの陰で、事なきを得ました。

今の時代、そんなトイレもないでしょう。

...今でも不思議だなとは、と思いますが、なんだったんでしょうね???

## ロリなモノ

---

とある私鉄の管理するレジャーランドで  
子供の頃、私が体験した話。

当時そこには、動く車に乗って巡るお化け屋敷が  
ありました（現在はありません）

それに兄貴と乗って怖くもないお化けの仕掛けを見て  
もう直ぐ出口というところで

何かが私の足を触ったんです。

痴漢だったのかもしれませんが  
（ロリは、いつの時代でも居るから）

でも、そこに人の入る隙間は無いと思いますよ。  
壁際ぎりぎりでしたから…。

思わず  
「ぎゃあ〜」って叫びました。

兄貴は、

「何を今頃騒いでんだ??？」

って言いましたが、

間違いなく、触られました…。

だって、車の中から触れますか？

大人の手の感触だけを覚えています。

## なまず男

---

「私の頭の中が、シャリシャリ鳴って辛いわ...」

と、友人に愚痴っていたら

「貴方ねえ～、それ貴女だけじゃないのよ！  
もっと凄い人いるんだから...。」

私の職場にさ、一人いるのよ。なまず男」

「なまず男??」

「うん、もう、ずっと前から、

体の左が痛くなると  
太平洋側で地震が起こり

右側で痛くなると日本海側。

で、頭頂部が、痛い時は、日本の中心当たり、って感じで  
当たるわけ。

もう、周りに居るモノの気持ち考えてみてよ...。

怖いよ....、彼の顔色窺ってるだけで恐怖だよ。

ぐったりしていると、地震か？それとも只の病か？気が気じゃないんだから。

疲れるよ、見せられる方が。

でも、この間の震災から、震度3程度くらいからしか感じなくなったんだって！

あなた、震度1程度で騒いでるだけでしょ？

今度、なまず男が騒いだら...恐怖でしょ？」

「...それってさ、ブログか何かで公開すれば良いんじゃないの？」

「それが、駄目なんじゃん、国家騒乱罪みたいな事になっちゃうじゃん...」

「へえ～、じゃ、なまず男が、騒ぎだしたらどうするの？」

「そういう時は、私達の職場のグループだけが、先に家に帰ってる...」

「.....そうなんだ」

情報公開って難しいね.....。

# 中耳炎

---

「なまず男」の話を書いた後で

妙に納得したんですが、

地震のあった前日の夜11時頃

私、左耳が、おかしくなってしまったんです。

夫に

「やばい！私も突発性難聴かもしれない。明日、耳鼻科に行くわ...」

と、言って寝室に行き、ベッドで小一時間寝てた位で

どん!!って

結構大きく揺れました。

怖かったですね。

愛娘も相当怖かったらしく

居間に自室から駆け降りてきました。

母：「今、凄く、大きかったね！地震」

娘：「うん、地響きがして直ぐだった...TVで速報出るんじゃない？

父！TV付けて確認してよ!!!」

PCの前で寝込む夫の人だけが...

「地震なんて有ったの?揺れた???嘘でしょ...」と、一言。

呆れてモノも言えません、というか、

「よく、そこまで爆睡出来るね!!!!」（母&娘）

叫びましたよ。

こ奴、地震が来て潰されても気がつかないタイプだ！

当地は、震度3の揺れ。

体感的には、もっと揺れたような気がしたけどなあ....。

猫は、ぐっすり眠ってました。

我が家の猫は、「雷」にしか、反応しないようです。

左耳の異常は（中耳炎っぽい感じ）今朝は、すっかり消えました。

耳鼻科で検診を受けた結果、異常は認められず

耳垢を除去して帰宅しました。

# 黒猫

---

まだ、祖父が生きていた頃のお話です。

祖父は、黒猫を飼ってました。

周りの人間が、

「あの黒ネコちゃんは、幾つになったんだっけ？」  
と考え込むほどの長生きをしました。

ネズミが苦手で、ネズミが出ると屋根裏に上がって  
震えるような気の弱い雌の黒ネコちゃんでした。

尻尾は、すらりと長い。

でも、やはり人よりは、長生きは出来ません。  
悲しいお別れの時が、やって来ました。

黒ネコちゃんは、祖父と叔母の手で、畑の隅に葬られました。

暫くしてからです。

祖父が、

「最近、黒ネコちゃんが、よく現れるよ。まだその辺をうろついてるようだ」

と言い始めたのです。

枕元に居たり、布団の中に潜り込んできたり、  
姿こそないにせよ、感覚は、ふわふわ、だったそうです。

「黒ネコちゃんは、俺と何時も一緒におるんだなあ」

なんて言っていた祖父も、祖母の死後3年後に亡くなりました。

今頃は、あちらの世界で楽しく暮らしているのでしょうか？

## チャット席の後ろで

---

忘れもしません。

2001年附属池田小事件日の夜に  
とあるファンサイトでチャットしていました。

深夜のニュース番組でも  
この事件が取り上げられました。

そのニュースを聞きながら...  
ふと、いやな感じがして、  
PCの画面から後ろに首を回すと

おりました。

確かに幼稚園の制服のを着た

女の子が一人と男の子三人。

紺のブレザーとチェックのズボンにスカート。

女の子は、おかつぱ。

男の子は黄色の帽子。

恨めしそうじゃなくって、  
にこにこ“おすまし”してるんです。

チャットルームのメンバーに

「ごめんなさい...私、だいぶ疲れてるみたいだから、もう、寝るね」

と打ち込んで、チャットルームから落ちました。

それから、大慌てで居間の電気を消して  
二階の寝室に駆け込みタオルケットを被って寝むりました。

恐怖だけど、なんだか、とっても切ないです。

翌日の新聞に犠牲になった子供達の顔写真が、  
載りましたが全く違う顔でした。

親より早く死んでしまう（殺されるのも含め）事は

「逆縁」と言って仏教では、悪い事とされますが

あまりにも切ないやり切れない事件でしたね。

もうさ、ホント「無常」としか言い表せない。

.....何だろうね???

七歳までは神様の子供

呼び戻されたのかしら。

## 予約時間

---

歯科の予約を午後に入れてあった頃のお話。  
時間まで一時間以上あったので  
居間で昼寝を決め込んでおりました。

昼寝をしないと体力持たないロングスリーパーなんで。

眠っていると

人の指の感触で  
頭を“こんこん”と叩かれて目が覚めました。

(何?今の???)

と思いながら時計をみると  
歯科の予約の時間が迫ってました。

(ああ...起こしてくれたんだ。誰かが)

ぼんやりそう思いました。

勿論、居間には私一人。  
愛娘は、学校。夫の人も会社。

なんだか知らないけれど、優しい人がいるようです。

亡くなった義父だったのかしら。

## 友人の妹

---

“天然パーマ”の話に登場した友人の妹は  
どうやら“いわゆる”本物の方のようです。

ある晩、恨めしそうな老婆が、  
彼女の寝込みを襲いまして（そっち系の意味じゃなく）  
くどくどと文句を言い並べたそうです。  
彼女、老人系には、厳しいモンですから

「ちえっ、全く世話が掛かる奴らだなあ〜」

と思いながらも、自分の体に  
老人の霊を降ろし、浄化して  
あの世に送ったそうです。

彼女の体は、浄化中は、指先が腐る  
原因不明の状態になりました。  
浄化が、終わってからは、治りましたけれどね。

で、実家でアルバムを見ると  
確かにモノクロ写真の中に  
その老婆が、写っていたそうです。

そんな彼女は、一日5食、食べまくっても  
全く太りません。  
エネルギーが、相当いるそうです。  
日常においても。  
羨ましい...くはないな。

## 落ち武者

---

私の友人には、見える人がおります。

見える人というのは

“見えること”が日常茶飯事なので

特に驚くこともないようです。

とある日、そのうちの一人が、言いました。

「参るよなあ～、この間の晩なんか

落ち武者が、俺の机の椅子に座ってるんだぜ…。

俺、座るところあらへんじゃん。

せめてベッドで、寝ててくれたらイイのによお～」

彼は、古戦場で有名な、とある場所にある実家に住んでいます。

あの辺りは、しょっちゅう出るもんみたいです。

ちなみに学習機は、『コクヨ』だったみたいですよ。

## 櫛の木

---

ぼろアパートに住んでいた頃の話です。  
私の部屋の窓から  
南の丘の方を友人が眺めて一言

「ああ、あの櫛の木で、まだ首括ってるわ...」

小さな、こんもりとした森で  
一番目立つ櫛の木  
複数の“見える”友人がいました。

現在は“ぼろアパートも”なくなり  
小さな森も宅地開発により消えてしました。

ふと、おしゃれな居間の吹き抜けの梁で  
首を括る霊の姿を想像してしまいました。

## お見舞い

---

まだ祖母が生きていたころの話。

ある晩、眠っていると夢に  
黄金に輝く狐が、現れました。  
神々しい感じです。

“なんじゃい...また、お狐様か...”

と思い、実母に電話すると

祖母の体調が、急変したという知らせ。  
夫に車を走らせて貰い  
祖母のいる病院へ向かいました。

看護婦さんに

「よく分かりましたねえ。  
そちらにも、ご連絡しようと  
思っていたところですよ」  
って。

こういう事は、よくある事です。

夢の中の“狐”さまが言うことには

とある太めの霊能者は、狐付きで

コンビを組む歌手は“ぎんぎつね”だそうなの。

だからゴージャスなんですね。

## 祖母の臨死体験

---

祖母の体験談です。

入院時に夢を見たそうです。

祖母は既に入院中で様態が悪化

危篤状態に陥りました。

すると

夢に祖父（つまり旦那）が

緑の木々をかき分けて急に現れ

「手前なんて、五月蠅いだけだから、まだ来んなっ!!!」

といって

ドンッ!!!って突き飛ばされたそう。

そして

目を覚ますと、そこは、病院のベッドの中。

臨死体験では自然豊かな光景が多いようですね。

祖父は、真面目で几帳面で厳しい人でした。

祖母は、いい加減で大雑把でおしゃべり。

祖父は

“山の神”のいない“あちらの世界”を

もう少し長く楽しみたかったのかしらね。

# クリスマスケーキ

---

クリスマスイブの前の晩

「今年のクリスマス、ケーキ焼くのもめんどくさいなあ〜」

と思いながら眠ったところ

母方の祖父が、夢に出て来てこう言いました。

「たった一人の孫娘なんだから、ケーキくらいは、作ってやれ！」  
と。

目が覚めた時、私は

(ぼかあ〜ん)

と、してしまいました。

「たった一人って、どゆ事？」

だって、私の兄には、一人息子が（内孫）がいますから。

年末、実家に帰って初めてその理由が分かりました。

何だったと思いますか？

兄は、離婚してたのです。

親権は、離婚した妻へ。

父は

「なんや種馬にされたのか」

と怒ってましたが

三人に一人は離婚する時代ですからね。

しょうがありません。

しかし、あちらの世界から助言を貰うなんて

思ってもいませんでしたよ。



## 二段ベッド

---

子供の頃は、二段ベッドに寝てました。

小学校5年の年の夏の夜

ベッドに付いてたカーテンを  
(母がカーテンレールを付けて光を遮るようにしてくれてた)

シャカシャカ派手に開けたり閉じたりする音に  
気が付いて目を覚ましました。

カーテンのシャカシャカ音だけじゃなくって

二段ベッド自体もかなり揺れましたから

てっきり上で寝ている兄貴が

私のイビキに腹を立てて

上からカーテンを開け閉めしてるのだとばかりだと思いました。

外も嵐のような風が、吹いてるような感じでサッシも揺れてました。

ハッとして目を覚ますと

辺りはただシンと静まりかえってます...

不思議でした...

当時の感覚を今覚えてます。

ポルターガイストだったんだろうか？

## ランチ

---

終の棲家として選んだ土地で知り合った友人とランチに出かけた時の出来事です。

ランチの席には、数時間いました。

その間にトイレに立った回数は、3回

空気が乾燥してましたから、喉も乾きます。

水もピッチャーでお代わりしたほどです。

2回目までは、スムーズに個室仕様の掘り炬燵のテーブルに戻れましたが

3回目が...

引き戸の隙間から、掘り炬燵を見ると17年来の友人の座っているだろう場所にはグレーのストールを巻いた御高齢な白髪のご婦人が座って談笑してるのです。

「部屋を間違えたな...」

と思いながら、もう一度、ランチしていたはずの部屋を覗き込んでみると

やはり先ほどの御高齢のご婦人が、幸せそうに談笑しています。

「...あの年で、気ままにランチなんて良い身分だなあ～、あやかりたいわ」

と思いながらも、自分の部屋を探してると

その白髪のご婦人の部屋の扉がガラガラと開き

「たちばなちゃん！ここ、だよお～」と

ランチを共にした友人の姿が！

驚きました…。

扉を開けたら  
そこに居た筈の御高齢のご婦人の姿は無く  
友人が居ました。

解り辛いかな？

異次元の扉が開いたように現実の空間が目の前に現れた感じです。

「覗き込んでたから、分かると思ったけれど  
迷っていたみたいだから扉を開けて貰ったの」

自分でも信じられませんでした

何度も目を凝らして見たので間違いはないと思うんです。

友人達に、その話をしたら

「もしかしたら、未来を見たのかもしれないねえ」

という結論に達しました。

「多分20年後くらいに白髪になりながらも、今と変わらずランチしてんだよ」って。

私は、ただただ、童話の一場面のような光景が、現実にあった事に驚いて

怖がりながらも妙に納得してしまいました。

幸せな腐れ縁は、未来に繋がって行くのでしょうか。多分。

## 雪景色

---

眠れない時は

『丑三つ時』にも平気で散歩に出かけます。

その日も、なんだか眠れない...

で、徘徊に。

おぼろ月夜の中歩いていると

空から白い粉雪が舞い落ちてきました。

月明かりに照らされ、自分の影を追い

“馬”をコントロールするイメージで

暫く雪の感触を楽しみました。

20分ほどで、身体が“芯”から凍え

「二度姉」の訪問を期待して帰宅。

暖かい飲みもので身体を温めたところに

「二度姉」が訪れ

暖かい布団にもぐり込みました。

“明け方”の夢って悪夢？が多くありませんか？

その朝の夢は、母が、私に向かって

愚痴を弾丸のようにしゃべり続ける夢。

「もう、そんな亭主を選んだのは貴方の責任でしょ？

少なくとも、私は、真逆を選んだんだから...」

なんて、夢で言いあってました...

正直、疲れる二度寝でした。

目をさまし、家人を職場に送りだし  
洗濯と掃除などの朝家事をしていると

突然の電話のベルが.....

(この朝の一番忙しい時間に誰やねん)

と思いつつ電話に出ると

.....母でした。

「おとついでから、誰とも話してないから  
夜中じゅう誰かと話がしたくって.....  
週末も来ると思ったのに、来ないし...うんぬん...」

『夢』と同じようなセリフを話しました。

ああ...これか...

(母よ、寂しいのは分かったかたから  
“夢”にまで出てこないように...)

言いたい放題、話をして電話をお切りになりました。

母は多分、『夢枕』に立つタイプかと。

常々

「怖いから、“夢枕”立たないように」  
とは、言っているのですが。

明るくなって居間のシャッターを開けると

綺麗な『雪景色』が、広がってました。

## キーホルダー

---

2013年一月に

九州へ二泊三日の旅に出かけたときのこと。

二日目の行程に日帰り露天風呂を楽しむというのがある

その際、温泉旅館のロッカーに

うっかり財布を忘れてきてしまいました。

財布の中には、クレジットカードやらプリペイドカード類  
ファンクラブの会員証等貴重品が入っていて

特にファンクラブの会員証は  
オンリーイベントで絶対に提示しないといけないモノ。

オンリーイベントの日程も迫っていて

今の私にとっては、何よりも大切なカードでした。

焦りまくって旅館にバスガイドさんの携帯を借りて電話して

探して貰うように手配。

ラッキーな事に財布は無事に見つかり

中身も全て無事に帰宅。

(私たちが家に着くより早かった)

ほんと、安堵しました。

本当に日本のサービス業は、素晴らしい！

私のカバンには

キティーちゃんの“光る”キーホルダーが付いてたのですが

(鍵穴とか見つける為に)

これが、貴重品ロッカーの中で光ってたんですよ。

実は、これ、“光る”【ボタン】を押しても

滅多に光らないんで

そろそろ捨てようと思ってたものでした。

その時は、

「なんで光ってるんだ？」

と思いつつも集合時間が迫っていて急いでたので

服を来て、鞆だけを取り出してそのまま扉を閉めて集合場所へ。

(財布からロッカー代を取り出していて財布をバッグにしまわないで置いた)

バスの中で、財布を忘れた事に気づき

(キーホルダーが光ってたのは、これを知らせたかったんだ...)

と思った夜、夢で爺ちゃんが

「馬鹿たれ...」

という顔をして、出てきました。

ま、こんな具合にイロイロなメッセージを

寄こしてきてるようですね。

ちなみに娘の夢にも、この頃、初めて出てきて

その時は、ただ黙って実母の横で笑ってたんだって。

孫娘には、甘い父でしたから。

ストレスフルな娘を慰めに来たんでしょう。

“光らない”キーホルダーが光ったのは

あちらの住人は“電気”系統は扱えるから

らしい、です。

## ライヴハウス

---

昔々、とある堅実な都会のライヴハウスの

薄暗い湿ったトイレに

子供の姿が見られたといいます。

ただし、見える人は、限定されていたようです。

『まあ、この世のものではないな』

とは、噂されていましたが...

年月が経ち、ライブハウスは、たいそうスタイリッシュで

小洒落た雰囲気の良い立派な建物に、移転しました。

とある日、私は友人に誘われて、そのライブハウスに出かけました。

ノリノリのライブ♪

休憩時間があり、私は、トイレに入りました。

入って向かって左側。

『いや〜ん』な雰囲気が。

客席に戻り、荷物番の友人と交代に客席へ。

入れ替わり友人もトイレに...

『トイレになんか居る』

「ああ、やっぱり。居るよねえ。ちゃんと付いて来てるんだねえ」

移転したから、居なくなったとばかり思ったけれど

“らしく”って良いねえ」

穴蔵なライブハウスにいた『子供』（男の子と女の子が居ると噂されてる）に

出会いに出かけてみたら、如何でしょう???

...というか、ライブで演奏するミュージシャンは、出会えているのだろうか？

もし、『出会えた』としたら

『大成』する事、間違いなしかもね。

## クリスマスの朝に

---

2014年クリスマスの夜

久しぶりに父が夢に出てきました。

設定は海外なのに和風なお土産屋さんに設けられた

ダイニングテーブルの傍らの椅子に片膝立てて

「昔は、こうゆう処にも押し売りが来て

何時間も居座ってたんだぞ」

なんて話をしてるところで

本家の叔母が

「また～○○ちゃんたら（実父の愛称）、嘘ばかり言ってえ～」

と、返していて

その会話が、あまりにリアルで

起きぬけ、思わず涙して

ふと...

（叔母さん、また入院したんじゃないの???)

って思い、確認したら

はい、入院してました。。。

亡くなった“魂”と夢で会えるなら

それは、それでラッキーだと思う。。。。

「夢にも出てきてくれない」

って、聞くから。

クリスマスの朝は、チョッと寂しくって

でも、嬉しかったです♪

サンタは、来なかったけれどね。

## 訃報

---

恩師の訃報を聞く前夜

“夢”に父が出てきた。

私が

捨てたライターに火をつけながら

「線香に火を付ける時に使えたかなあ〜」

って話したら

「そんなもんで火をつけたら

天井が燃えてしまうわ。

あ、上に昇ったみたいだぞ...」

って。

“何”が“上”なのか

分からなかったけど

友人から恩師の訃報を告げる

メールを受け取り

(ああ、この事か...)

と納得した。。。。

東中 3年A組

ラストのクラス会25名

みんな泣いてる。。。

はとこ

---

従弟の長男が亡くなって悲しみにくれた叔母。

私の事を全て知っている伯母に私が体験したことを伝えたくって

年始に“お参り”した時の話です。

私が体験した不思議な話を伯母に伝えたところ

伯母が言うには、

「『〇〇も（はとこ）朝は忙しいから、“お経”は夜だけで良いよ』

って、“夢”に出てきてで言うのよ……。

“あちらの世界”に行ったら、ホントに沢山の“仕事”があってね

『読経』を毎朝唱えてくれるのは嬉しいんだけど

忙しくって……

婆ちゃんの『前』に居られないから

『夜』だけ、唱えてくれたら良いよ」

って『夢』に出てきて語ったそうです。

私的には、もの凄く共感した『話』でした。

“お経”唱えてくれる親族には、電話口で対応するように

“何故だか仏前に居なくっちゃならない”

気持ちになるようで

多忙な『あの世』での、その時間は結構“時間泥棒”なんだそうです。

震災後、“自動車整備”の仕事が増えてるそうで

「朝一番から仕事しなくっちゃならないから……」

という理由で、朝の『読経』を断る“はとこ”

……『らしい』なあ、って思いました。

“はとこ”の『気風』を買って採用した“整備会社”の社長は

亡くなってから“月命日”のたびに仏前に“お参り”して下さるそうで

「生きていてくれたら“工場”を任せても良い人材だった」

そうです。

『〇〇ちゃん、あの子は、生きてるうちに好きな事が出来て

現世には何にも“心残り”が無いんだって…』

って、話をする“叔母”に“心を寄せながら”も

この“不思議な話”をどう解釈していいのか悩む私なのでした。

『何か』は在るんだろうけれど、それが『どれほどの意味を持つのか』

悩めるところではあります。

でもま、人間『真正直』に生きた方が良いと思う今日この頃。

くれぐれも肥大する『エゴ』に惑わされませんように。

## 扉を叩くもの

---

遅めの帰宅が続く夫。

その夜も最寄駅に着いてからの“帰宅メール”

帰宅に合わせるようにカレーを温めてると

玄関のドアノブがガチャリと落ちる音がした後

扉を叩く“コンコン”っていう音が。

(鍵が出せないんだな)

と思ってカレーのお鍋の火を落とし

玄関に出て扉を開けると

居ないんだよ、だれも。

まね、気のせいと言ったら気のせいなんだけどね。

この数年前に

風の強い夕方

南の窓ガラスを叩く音がして

「あ...帰宅したんだ」

と思い

玄関から庭に出ると

ただ風が吹いているだけで

誰もおらず

鳥肌が立つ思いをしたことも。

数年一度ある気がする。

アレルギーの出やすい時期と重なってるから

めんどくさくって

いらいらします。

## 縄文杉

---

所属する美術部で縄文杉を描いてる方がいます。

その方の体験した話

山岳ガイドさんの案内のもと

屋久島を探索している時

樹齢3000年と言われる樹木の傍で

“精霊”を見たそうな...

白装束に、白いマスク

私が“お水とり”の画像を見せたら

「そんな感じの衣装をまとう男性だった」

そうです。

(やっぱり、日本には、樹木の精霊がいるんだ...)

童話のようで素敵です。

ちなみに山岳ガイドさんによると

その“精霊”を見たのは

彼女を含めて3人だという事です。

「見える人には、見えるみたいですね」

ガイドさんは、羨ましいそうです。

.....見える方がいいのか???

悩むところです。

むかし、知人の鰻屋さんが常連さんから

『鰻』をさばくように頼まれました。

飛騨川で釣ったというモノなのですが

そのサイズが人の腕回りぐらい（20cm?）あったそうです。

「川の『主』じゃないのか？」

と気持ち悪く思いながらも常連さんの頼みなので断る事も出来ず

いつもの倍の時間をかけてさばいたそうです。

15人前以上（正確な数字は忘れてしまいました）の蒲焼きが作れたそうです。  
（お味の方は、脂がのり過ぎて、それ程美味しくも無かったそうです）

さばいた晩に眠っていると、いつもは感じない“喉の渇き”を感じ

酷い落雷の夜に仕方なくトイレに立った御主人。

誰もいない筈の調理場から、物音がするのに気が付きました。

怖がりの御主人、昼間の事もあったんで

確認する事なく布団に戻りました。

翌日、調理場に出向いてみると水槽の『鰻』が土間に散乱していたといいます。

それを見たご主人、昨日さばいた『鰻』の事もあって

「『主』が他の鰻を助けようとしたんじゃないか？」

と感じたんだとか。

そしてこの『鰻』を釣ってきた人は、その後急死。

食した人も次々と病に倒れたようです。

偶然でしょうけれど、

「たちばなちゃん、なんか気持ち悪いよねえ」

と話してくれた奥さまと御主人も。

「『主』と思われる“生き物”は川に返せよ！」

川を知り尽くしている伯父の言葉を思い出した出来事でした。

池田湖の大鰻を見ながら思い出したお話です。

# 留守番電話

---

父が亡くなった翌年の10月10日

実家から、恒例の梨が届きました。  
お礼を言おうと、電話をすると、これが留守電。

「畑仕事でもしてるんだろう」と思いこもうとした。

でも、機械音痴である実母が

留電設定なんて出来るわけがない。

夜になり、もう一度電話してみる。  
案の定、留守電は、解除されてはいない。

しかし、スイミングへ行っている可能性もあるので  
翌日の朝、もう一度電話をしてみる。

やっぱり、留守電。  
「こりゃ、何かあったな」  
と思い、緊急の時の連絡先である、お隣に電話。

「母の家の電話が、留守電になりっ放しで

通じないけど、何かありましたか？」

すると、お隣さんが言うには

「昨日は、お葬式でいなかったけど  
今日は、ちゃんと居るよ。じゃ、そうやって事付けておくね...」

と言われ、その時は  
「またご近所の老人の葬式か...」と思っておりました。

折り返しの電話で

**葬式が従弟の長男（20歳）であることを告げられ...驚愕。**

一日家にいる事を告げると、  
「今から頂いたモノを持っていくよ。」  
と言われ、我が家で話を聞く。

母は、留守電のセット仕方というか

留守番電話の機能の存在すら知らなかった。

不思議なのは、叔父が

「今、葬式から帰ったよ、御苦労さま。梨も一緒に着いたよ、ありがとう！」  
という、電話とか、他の人の電話は、ちゃんと通じてたということ。

実家への電話番号は登録してあるからかけ間違いはありえない。

私からの電話だけが通じていないなんてことがあるのが不思議。

これは、死んだ父からの『知らせ』だったんだろうな

と、解釈してます。

母は、婚家との確執があり

私には、知らせずに済まそうと思ってた節があり。

通夜と葬儀には、年の近い『従兄弟』関係は

全員出席してたというから。

実父が生きてたら

「亡くなったのは、“はとこ”にあたるんだから電話だけでもしろ...」  
って、言ったと思うんだ。

というわけで、現実の初七日に間に合う形で

“香典”を送る事が、出来ました。

親せき付き合いは、煩わしいけれど

子供の頃は

私たちと、よく遊んで

実父の葬儀の時にも通夜から参列して

兄と昔話をしてた従弟の長男なんだから、知らせてくれよ。

じゃないと不思議なことが起きるから。



# カタログ

---

父が亡くなって2年目の6月  
久しぶりに夢に父が現れました。

老人が乗ってる無免許でも大丈夫な補助バイクの  
カタログをひざに乗せ、隣に実母を座らせて

「歩くのが、しんどそうだから“こんなん”買ったらどうだろう??？」

と。

(相変わらず、めんどくさい事を言ってくるなあ)

と思いつつ、実家に電話すると

やはり夢で言っていたように、少々歩行が難儀になってきたという。

畑に出ると、近くの町に買い物に出かけるのが精一杯とか。

駅まで、5分の道のりを15分以上かかって歩くとか。

でも、なんとか生活は、成り立っていると言うので

夢の事を話すと

「そうやって報告してくれるんだから安心だ」

と、母は勝手にたまっておりました。

なんだかんだ言っても

父は、母のことが好きなんだな。

## 着信履歴

---

ママ友の実父が亡くなった。

十数年慣れ親しんだ病院で点滴をした後

具合が悪くなり、自宅に帰宅する途中の事だった。

最近の傾向として、こういった場合は不審死として

救急車で運ばれた後、警察で解剖するそうだ。

「身体を切り刻むのだけは勘弁して欲しい」

と、訴え

さまざまな状況と話を総合して

事件性がないから解剖だけは免れたそう。

警察から遺体と共に家族の元に遺留品が渡され  
(TVドラマと変わらない状態で)

葬儀・告別式も終わったあと

封印された携帯の最後の発信履歴をみると、

その時間は、彼女の父が警察での『検視』が

終了した時間だったそう。

「母に、帰るコールしたかったんだろうねえ～

たちばなさんが言っていたように不思議な事って

ホントにあるんだねえ…。

体験してみて驚いた」

「でね、父は、百日の日に弟の夢に出てきて、

弟を怒鳴ったんだって

“俺なんで怒られるんだろう...”って弟は言うけれど

心当たりあるんだあ、

今、付き会ってる彼女が悪女なんだって。

生前から“騙されてる”って言ってたから

あの世に行っても心配してるんだってw」

という事らしく

あの世に行っても息子を叱る父親に苦笑。

まあ～、なんだか、いろいろ大変だなあ...父親って。

## 清明神社の使い魔

---

父の亡くなる前の出来事です。

とある朝、私は、台所で  
お茶碗を洗ってました。

夫と愛娘を送り出した後です。

心と視線を感じて階段の方を向くと  
階段の踊り場の壁越しに  
「清明神社の使い魔」が  
こちらを覗いていました。

「こりゃ、いかん。私相当疲れてるんだ」

と、思い  
出かける予定をキャンセルして  
二度寝する為に二階の寝室に上がり  
仮眠を取っていたところに

突然  
“ぴい〜んぽ〜ん♪”  
という、ドアフォンの音。

「誰やねん、アポも取らずに...」

と腹を立てて、ドアフォンを取ると

そこから流れてきたのが、実母の声。

「居ても居なくても良いからと思って...」

と言って、デパートの土産をくれました。  
その頃は、まだ実母は、毎週二回程都会へ  
通院の為通ってましたから、途中下車なんて  
気にもなりません。

“これを伝えたかったのか...”

使い魔が、出た意味に合点がいきました。

虫の知らせ???

なにせよ“晴明”のご加護は篤いものです。

## 治してやる

---

2011年の夏

精神的にも肉体的にも疲れ切っていた頃

昼寝をしていた時の“夢”

夢の中は、たくさんの医療計器が並ぶ診察室

数人の医師が働いている。

私は、診察台に寝ていた。

そこに白衣を着た筋肉質の医師が

太い注射器を持って

頭の中心に注射をしようとした。

「そんな、心の準備ができてません」

と言うと

【いいから、治してやる！】

と言って注射をした。

注射器の針が頭に刺さる感触で目が覚めた。

その【声】は、二十歳の頃ベビーシッターをして

お世話になった登山家で医者である人の声だった。

驚いて、PCで検索すると

亡くなっていることが分かった。

ああ、彼もまた“あちらの世界”で仕事をしてるんだ。

と納得し深い縁を感じたものでした。

今現在改めて検索すると

ウキペディアに彼の功績が記されていて

懐かしく思い出される。

「君は、猫に懐かれてるねえ、僕には懐かないのに…」

と語る彼の言葉とともに

ジャッキー&ソティス&グリンゴの3匹の猫を思い出す。

何もかもが遠い過去

それでも、まだ私は生きていけないといけない。

## 古墳

---

終の棲家を選んだ土地は、尾張尾北古墳群と呼ばれる地域でもあります。

とある土砂降りの雨の降る夜

古墳の上に建てられた神社の脇を守るように立つ武者姿が見えました。

威厳のあるたたずまいに驚いたのですが

翌年の大河で“竜馬”が放送されたとき

その意味が理解できました。

放送された竜馬の父と兄が墳墓を守るシーンの姿にそっくりだったのです。

流石、天下の“えぬえちけー♪”であります。

墳墓を守る“何者か”が存在してることに感動を覚えたものです。

亡くなった〇圭の“しゅう君”が夢に出てきて

「いやぁ～ただで音楽が楽しめる時代が来るとは  
夢にも思わなかったなぁ。

この先どうなるんだろうなぁ～」

って窓辺に座って言うんで

「そりゃ、21世紀の子供たちが考えることであって  
私たちには関係のないことになるんだろう。

言われる通りにするしかないよねえ」

なんて答えてるとき

“しゅう君”のいる窓の外で

犬がmake loveしててですね、

「“しゅう君”後ろで凄いことが...」(°Д°)

と言ったら

後ろを振り返り

「おお...なんというか良い季節だわ♪」

と言って笑って消えていきましたwww

私は、あちらの世界からのコンタクトだと

信じてるんだけど... (通常の夢とは“質”が違うから)

なんだか嬉しかった。

音楽が好きで“本”に拘りを持つ素敵な“おじいちゃん”

になった“しゅう君”

まね...店舗のこととか心配になったんだろうな。

優しいよねえ。。。

ブログには載せていない具体的な事を記しておきます。

“しゅう君”が亡くなってから本店の扱いをどうするかが問題になり  
結局、本店を売りに出すこととなりました。  
地元では老舗の本屋でしたが  
これも時代の流れです。

そんな時期に表れた“しゅう君”  
彼を知る人なら理解できることと思います。

なんでもかんでも  
“利益優先”で良いのでしょうか？  
考えてしまいます・・・

## 印鑑

---

なにをするにも必要となるのが【印鑑】でして。

過日、書類を作成しようとするも

印鑑が探し出せず母に

「印鑑はどこにあるの？」

と問うても

「印鑑はこれしかない」

と答えるんですが

それが実印でして

「いや、これではあまりに重いから

三文判でいいから、あったよね？」

と言ってもらちが明かない(´・ω・`)

こんな時は

【忍辱】と唱えながら探すのも『手』ですが

最近、もっぱら仏壇の爺さまに向かって

木魚と“りん”を鳴らしながら

「印鑑何処よ？印鑑...ないんだけど？」

と、唱えるとですね

あら不思議すぐに見つかるんですwww

ふる～い友人（靈感あり）が、前に

「かのんちゃんの、お父さんが黒文字見つけてくれた」

という言葉から

（あちらに行ってから家にも居るんだから知ってるはず）

と思ってね。

き〇がい、みたいでしょ???

でもね、不思議とみつかると面白い☆

というわけで

無事三文判は、旧姓4本と母の旧姓2本が

発掘されましたw

母の方の三文判は多分遺産放棄とかのとき  
使用したんだろうなあ。

まあ～ほんとに【印鑑】の文化どうにかならないもんかしらねw

オカルトとも言えない不思議体験であります。

## 扉を叩くもの

---

最近、遅めの帰宅が続く家人。

昨晚も最寄駅に着いてからの“帰宅メール”

帰宅に合わせるようにカレーを温めてると

玄関のドアノブがガチャリと落ちる音がした後

扉を叩く“コンコン”っていう音が

(鍵が出せないんだな)

と思ってカレーのお鍋の火を落とし

玄関に出て扉を開けると

.....ただよ。

居ないんだよ、だれも。

まね、気のせいと言ったら気のせいなんだけどね

止めてくれ————

めんどくさいから (苦笑)

数年に一度ある様な気がする (前は、ガラス窓だったけど)

アレルギーの出やすい時期と重なってるから

めんどくさくって

余計にイライラするよお～（苦笑）

## ドン・キホーテ

---

高校時代の美術部の恩師の個展を観た帰り道  
名鉄の駅に向かう途中のことです。

(もう、鳴ることもないな...)

と、思っていた耳鳴りが。

ふしみ付近にできた“ドン・キホーテ”をみて  
(こんなところにもできて...悪趣味だなあ)

と思ったとたん、右から

(ぼーん)

とはっきり聞こえましたw

ああ...後ろの人も、そう思ってるんだ。

なんだかね、やはり“金”にものを言わせて  
やりたい放題は、良くないようです。

真正直に生きた方が身のため...かもw

## チョコレート

---

昨年暮れに

友人から販促品でありながらも  
とても素敵なチョコレートを二箱貰った。  
三つ入りと七個入りだったかな？  
クリスマス用のモノで25日が過ぎると  
ケーキみたいに在庫となって  
処分するものだった。

包み紙がハイカラでチョコはブランド  
田舎では手に入らないモノ  
それを鞆に入れて同級生の営む茶店で  
コーヒーを飲んで、たわいない話をして  
帰り際に、同級生のお父さんに

「あ、おじさん、これ頂き物だけど“おすそ分け”」

って言いながら、三つ入りのを渡したら

「あれ～、ありがと。こんなん貰ったこともないわ」  
と嬉しそうに笑って、受とって貰って

「お元気で。良いお年をお迎えください」  
と、握手して別れようとしたら  
「駅まで送ってあげるよ」  
と言って頂いて

最寄り駅で

「また、来年もよろしくお願いします。」  
なんて言ったのが、最後の会話となりました。

美術部で

「〇〇さんって柿の下の茶店の人でしょ？  
お悔みに載ってたよ」  
という情報を貰い  
なんとか四十九日には、間に合いました。

余りのあっけなさに、言葉を失いながらも  
チョコ渡したときの“笑顔”が可愛くって。

亡くなって三日目の夜  
同級生の夢に出てきたそうです。

「年金が入らないようになるけれど大丈夫か？」  
って。

喫茶店の経営は、厳しく  
奥さんも働きに出て、本人もパートの掛け持ちで  
なんとか経営を持続させていて。

「入院してる時から気にしていたから」  
という言葉通り  
亡くなってからも心配してるようです。

喫茶店を営業するのは、同級生の母親の夢だったので  
亡くなった母親も時々

「あまりに辛いんだったら、もうこちらの世界へ来るか？」  
なんて言って出てくるそうです。

高齢者の客ばかり増えて  
若い人は茶店には来ない。

いずこも同じようですが  
故郷の大事な居場所なので  
踏ん張ってもらいたいものです。



## スイスの原発

---

2011年の震災の夏

プールからの帰宅途中

スイスが自国の原発稼働の見直しをするという

ニュースを思い出し

(まさかスイスにも原発があったなんてなあ～)

と思った時も右から“耳鳴り”がなりました。

後ろの方もスイスにまで原発があるとは思わなかったようです。

後ろの人も全てを知ってるようではないみたいです。

なんだか、いつも共にいるようである意味安心？かな。

## ゲームセンター

ゲームセンターで働いていた友人  
毎朝、一番で職場に出勤します。  
というのも、彼女が“鍵”当番だから  
ゲームセンターの鍵を開ける仕事が  
実は一番責任重大

出勤するたび扉の前に  
この世のものではない男の人が立ってます。  
(ああ...まただよ...また...)  
うんざりした気分で鍵を開けると  
彼女の後ろを歩き店に入り  
一台のゲーム機の前に立って  
生前“お気に入り”であったであろう  
ゲームをプレイしてくれる人を待ってるという。

“お気に入り”のゲームをする人が現れると  
それを、ずーと背後から観てるというw

「あんまり気味が悪いんで辞めたよゲームセンターの仕事」  
と言ってました。

で  
この話を聞いたときは、まだ実父が生きていた頃で  
亡くなった後にですね  
PCで動画を見てたんですよ私  
すると、おもしろ画像みたいなものを観てるとき  
「猫を犬に仕立てる」ようなものがあり  
笑っていると例の“耳鳴り”が左からwww  
(確かに犬じゃないわな/苦笑)  
と思ったんですけど  
(一緒に観てるんだなあ...)  
って、納得した話でした。

体感しないと理解できない事ってあるよね。



心霊現象と言うほどのことではありませんが...

2018年12月

私は“舌”を手術するために地元の病院に入院しました  
全身麻酔による手術だったので術中の痛みはありません

手術前

神経質になるのが嫌で病院内を歩いて気を紛らわしました  
病院の関係者も歩いてない時間帯に...

でね、とあるソファーにゆらりと揺れる影があり

ぞくぞくと寒気がしたので

(こりゃホントにヤバいわ...)

と感じて自室に戻りました。

そして手術も無事終わり

明後日には退院という頃に

ようやく点滴が外されました

繋がれてる“感”が強かったので

自由を堪能しようと早朝4時ごろに

病院内を歩き回りました

階段を上ったり下りたり

実はここ地元の

“見える方”にとっての恐怖の場所で

そんなことも失念するくらいに

舞い上がっていた私が馬鹿でした

本館の霊安室前を通るとき

ゾクゾクとした感覚を覚え

それを無視して院内を一周して

歩数が5000歩を超えたとき

(院内だけでそれだけ歩けのよ

紫外線を浴びることなく

乙女にとってポイント高いよね/苦笑)

霊安室から出る“仏”さまと  
遭遇してしまいまして  
恐怖にビビりながら部屋に戻りました

そうか～噂の“ソファ”ってあれかっ！  
って確認できました（涙目）

でも一番怖かったのは  
初日部屋に空きがなく  
特別室に普通の個室の金額でね一泊でき

その翌日  
「ごめんなさいねえ～  
全額払ってくれる患者さんが  
来院したから普通の個室に移動してね」  
って  
一般の個室に移されことでした

豪華ホテル並みの金額を払える人いるんだね

凄いね。うん、間違いなく格差社会だわ（滅）

という感じで  
乙女の“もぐもぐ”期は“かみかみ”期へ移行してます♪

誰か...同情してください(ノ泣)シクシク...  
可哀そうにねえ～大丈夫～？  
って優しく声かけてえ(;\_;)/~~~  
病氣自慢止めよお～よお～（苦笑）